



## 2年生 わくわくした町探検

今日(28日)2年生は、町探検を行いました。地域の様々な場所を訪問したり利用したりする活動を通して、地域の場所と自分との関わりを見つけていきました。子供たちは、地域のお店や派出所などに出かけました。子供たちは「(交番)パトカーは、ボタンでサイレンを鳴らすことがわかった。」「(動物病院)動物に麻酔をかけるときは、注射じゃ怖がるから、チューブを当てて麻酔をかけて治療することがわかった。お医者さんは優しくかった。」「(パン屋)最初は小さなパンも揚げたり焼いたりして大きくしてから具を入れるなど工夫されていた。」などと感想を述べ、地域の方々と接し、親しみをもったようです。子供たちは自分や友達の発見したことを交流していきながら、地域の様々な場所や人、出来事に気付いていくことでしょう。今回は、学年活動も一緒に行われ、保護者の方々も子供たちの探検に同行していただきました。探検は、子供たちが安全に気を付けて行動しようという意識づくりにも役に立ったようです。ご協力いただいた地域の皆様、保護者の方々、ありがとうございました。



## 新紙幣の裏側で...

2024年7月に、紙幣が20年振りに変わります。1万円札は渋沢栄一、5000円札は津田梅子、1000円札は北里柴三郎と刷新されます。その紙幣づくりを担当しているのは、国立印刷局で働く専門職である「工芸官」と言われる人たちです。工芸官は国家公務員として働き、30名程度の少数精鋭です。紙幣の柄や影を表現する線の幅は、1mmの25分の1程度の40μm(マイクロメートル)以下という細さです。こうした線や模様を描き出すことのできる工芸官は、偽札づくりなどの犯罪に巻き込まれえる恐れがあるため、本名や担当する仕事、経歴などは秘密だそうです。そこで、専用の執務室で作業するそうです。20年に一度の新札づくりの仕事なら20年に一度すればいいとはなりません。技術力を高めるために、「収入印紙」や自治体が発行する証明書のデザインなどを担当し、デザイン力、企画力、技術力などを高めているそうです。



尚、工芸官の募集は国立印刷局ホームページで行われ、美術系の学校においての履修を応募資格としているそうです。